

平成 28 年度愛媛県社会教育実態調査（指定テーマ調査）の結果概要

1 テーマ 子どもの貧困と社会教育

～社会関係資本（人間関係）の視点を中心にして～ *注

2 調査概要 調査時期：平成 28 年 9 月～10 月

調査 1～5 により、子どもたちを取り巻く状況について調査を実施した。

3 主な結果概要

(1) 調査 1（市町対象）（回答：20 市町、子どもの貧困対策につながる社会教育の取組等）

- ・全市町で、子どもの貧困対策につながる取組が行われていること。
- ・市町で効果のある取組では、家庭教育支援、地域子ども学び場、放課後子ども教室など、「学校・家庭・地域連携推進事業」（国県補助事業）を構成する取組が上位にあること。
- ・市町の主要課題は、①人材確保と②真に支援を要する家庭へのアプローチの方法。

(2) 調査 2（児童生徒対象）（回答：小 5、中 2 計 1,674 人、地域とのかかわり等）

- ・最多回答では「父母と子どもの 4 人家族、朝食は毎日食べるが、ときどき 1 人で食事」。
- ・児童生徒が放課後や休日にかかわりのある人では、「地域の人」は 4 位 21.1%。
- ・児童生徒の 69.1%が、塾や習い事に通っていること。
- ・地域の活動に「あまり参加しない」と「参加しない」は 27.3%で、ほぼ 4 人に 1 人。
- ・地域の活動に参加している児童生徒ほど、自己肯定感が高くなっていること。

(3) 調査 3（調査 2 の保護者対象）（回答：1,533 人、地域とのかかわり、悩み相談等）

- ・最多回答では「保護者は 40 歳代で、住居は戸建て持家、暮らしの状況は普通」。
- ・地域（近所）とのかかわりでは、子どもを見てもらう 7.5%、困りごと等相談 4.4%。
- ・地域の活動に「あまり参加しない」と「参加しない」は 24.7%で児童生徒とほぼ同じ。
- ・保護者も、地域の活動に参加するほど自己肯定感が高くなっていること。
- ・保護者の悩みは、1 位「勉強や進学」、2 位「教育費用」、3 位「しつけやマナー」。
- ・要望は、1 位「遊び場の提供」、2 位「体験活動の場の確保」、3 位「学習の場の確保」。

(4) 調査 4（学校対象）（調査対象 6 校、取組の状況、社会教育に対する要望等）

- ・学校は、日々各種課題と向き合い市町や地域と連携しながら対応を行っていること。
- ・学校からの要望には、生涯学習・社会教育に関することも相当数あること。

(5) 調査 5（団体対象）（調査対象 6 団体、活動内容、活動の実際、成果と今後の展望等）

（具体的な取組事例として、東中南予ごとに 2 件、計 6 事例について聞き取り調査を実施）

4 調査結果から、今後の取組に際して留意すべき点

- ① 保護者への必要な支援を届ける「家庭教育支援の拡充」を図ること。
- ② 子どもたちへの支援の可能な「放課後等の教育支援の充実」を図ること。
- ③ 市町の課題に対する県の支援策を充実し、「市町との連携協力」を一層図ること。
- ④ 教育支援でのプラットフォームとなる学校を、「社会教育の面からサポート」すること。
- ⑤ 引き続き「豊かな社会関係資本（人間関係）づくり」を行っていくこと。

*注 「社会における資本は、経済資本（財力）、文化資本（文化的財）及び社会関係資本（人間関係）の 3 つの対極からなる（ピエール・ブルデュー（フランス・社会学者）」との学説による。